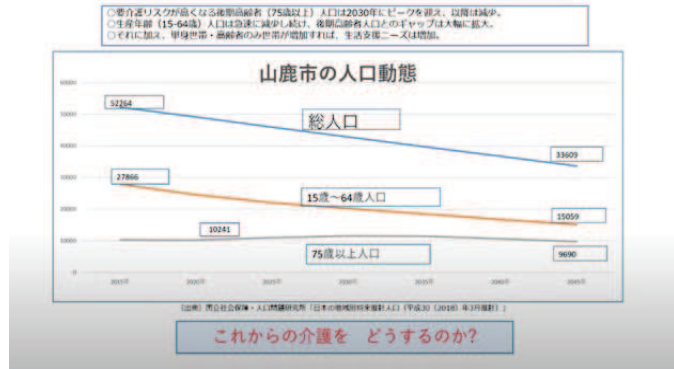


要旨

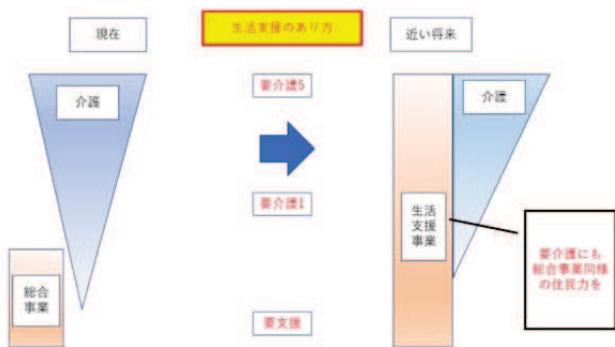
近年、山鹿市では高齢化が進んでいて、高齢者を中心に介護について様々な課題があがっている。介護の課題をなくす取り組みとして、山鹿市の中で介護に携わる仕事の人を増やしたら課題が減るのではないかという仮説を立てた。介護難民とは、介護が必要な状態であるにもかかわらず、自宅や介護施設で介護を受けられない人のこと。一人暮らしの高齢者の増加や介護士不足などの影響により、介護難民は今後増えていくおそれがあるとされている。そのためには身体機能を維持する、情報収集しておくことが必要。

研究背景



山鹿市では今後20年間生産年齢(15～64)人口は急速に減少し続け現在の55%程度となり働き手が減少し、要介護リスクが高くなる後期高齢者(75歳以上)人口は2030年にピークを迎える。また、単身世帯・高齢者のみ世帯が増加し、生活支援が必要な人は増加する。今後、高齢世帯のみとなることも予想されている。そのため施設に入居せずに行う「住宅介護」、高齢者同士で行う「老老介護」や認知症者同士の「要介護」などが増えていくことが考えられる。

これまで山鹿市では認知症サポーターや生活支援コーディネーターの育成が行われてきた。これらのちからを合わせて、更に新たな力を掘り起こし、地域の総力で地域の介護を守る取り組みへ発展させることが必要。



この資料を見ると、現在は介護を必要としている人が多いにもかかわらず介護施設が少ないということがわかる。これにより介護難民が増えていくことが予想されている。そうならないために、近い将来には要介護者に対して現代より多くの介護施設を増やしていくことが生活支援のあり方とされている。ただ、近い将来では現在と比べて少子化が問題となることわかる。つまり、少子化の対策を考えながら施設を増やしていくべきだと思う。

引用文献・参考文献

<https://www.cocofump.co.jp/articles/kaigo/133/#:~:text>

→介護難民とは

<https://www.minnanokaigo.com/guide/homecare/poverty/>

→みんなの介護

[山鹿の介護をどうすつと？](#)

介護職員を早急に増やす必要があるが、介護職は収入が低めの職業であり、介護職につく人が少ないことが課題である。

研究方法

インターネット調査

インタビュー調査

結果・考察

インタビュー

「高齢者になって介護をされたいか？されたくないか？」

(74歳女性)施設の人にしてほしい

理由(なるべく自分ですることはするけど、どうしてもお世話にならないといけない時には介護してもらいたい。)

(70歳女性)介護されたい

理由(介護されたほうが安心できる)

「もし自分が要介護者になった時に施設に入るか？自宅介護してもらおうか？」

(74歳女性)施設に入りたい

理由(そのほうが家族に迷惑がかからなくていい)

(70歳女性)施設に入りたい

理由(自分が要介護者になると1人でできる事が少なくなるから施設に入ると安心できる)

「施設に入って不安なことは？」

(74歳女性)人間関係がうまく作れるか心配

(70歳女性)入った介護施設がきちんと接してくれるかや 施設に入るためのお金がどれだけかかるかがとても不安

インタビューから、高齢者になって介護されたいという意見が多く、そのほとんどが施設に入りたと思っていた。しかし、施設に入ることによって施設に入るお金や人間関係などを不安に思う人が多かった。このことから、介護施設についてもっと知ることで介護についての問題が減っていくと考えられる。

今後の展望

山鹿では人口が減り続け、そして高齢者は増加しているのが介護の課題に繋がっていると思う。社会福祉の中では、介護が必要な人が多くなっていて、それとは逆に、介護で働く人が減っているというのが課題だとわかった。今後、介護を必要とする人は増え続ける。だから、介護の仕事をする人は、減るのではなく、増えていくことが理想。地域の人が介護施設で働けば、介護職に付く人が増えて、安定していけると思う。